

大正拾五年

梅木山林記錄

實三月作成

虫尾村梅木山林永遠維持方、就而田緒託録

一梅木山林及別壹町八反歩

外、其屬地原野若林參反歩

右之山林當虫尾村慶長年間負ハ荒地、儘ニテ

捨置キ成シ爲ニ我本村ハ年々納米ニ苦シニ

楨害ヲ蒙リタル場所ナリシ爲ニ三田虫身竹屋忠

右衛門、鍵屋安右衛門、干物野屋權五衛門

之是三名虫尾村ニ来リ万治貳年、

おつてんのお谷 ぬたをの谷 さかおの谷

たがれおの谷 おも池の谷 いぬのばの谷

是大夫の谷 五本松 右之ハテ所ヲ讓度

慶寶文元年八月ヨリ田地開墾致シテ

寶文拾年ニ至リ納米三五死ツ年々我本村ハ

納メタリ故ニ我本村ハ年々三五死ツノ相害ヲ

免ガレタリ爲ニ流シ尾ノ谷西ハ福嶋界ノ界

リ尾限リ南ハ野山界トシテ我本村ハ一切入會

セズ又かきい等、如キモ一切振リ申サズト、功大給

証ヲ我虫尾村ニ差入レリ尚共有林及野山

等モ我本村ト虫尾モ同一ノ權利ヲ有シテ入會シ

来レリ御維新爾来ハ大原村ノ屬地ニシテ虫

尾新田ト云ハリ然ルニ流シ尾ノ谷ハ寶文拾年秋

本村ヨリ確タル契約証ヲ當虫尾村ニ入レ充方虫

尾村ノ權利有ルト思フニモ拘ラズ我本村ハ外原

野同等扱ヲ成シ来レリ又我本村ハ字本原虫

卷二第...

林拾九町八段五畝歩モ有リ虫尾村ニ字梅木山  
林壹町八段歩有リ是又ニテ山林共虫尾大原  
村同一權利有ル村有林トシテ来リシ慶明治  
拾八年虫尾大原村ノ間ニ於テ紛議ヲ生ゼシ事有  
リ時ニ本谷山林拾九町八段歩ハ本村三千八名ノ  
名義持ニ移シ梅木山林壹町八段歩ハ虫尾村  
大石兼吉外九名持ニ移レタリ則チ九名ノ名義  
存通リ

竹谷重兵衛門 吉村保五郎 吉村万吉  
大原喜三兵衛 中西平右衛門 竹谷重五郎  
大石助四郎 竹谷吉村 豊吉  
西田常助ノ 九名ナリト云

林本村ト虫尾トノ山林分割合ハ度ニ不公平  
ナリシモ何方虫尾村ハ新田ニカ故ニ材木村ヨリ  
ハ順ニ梅尾セシテ遺憾ヲ思ビツ、来レリ明治四年  
ニ至リ有ル事情ノ為メニ御維新以來ノ村有林ニ引  
度シ今ニ至リタリ然ルニ今回公有林野統一ニ際シテ  
ニテ山林共明迄拾八年ノ如キ名義ニ引直シタリ依テ  
次ノ公有林野統一ニ際シテハ是非流レ尾ノ谷ハ古来ノ  
契約証ニ基キ虫尾村ノ權利ニ復權スル事ノ手續  
キ成シ虫尾村民一致シ極力事ニ當ル事ヲ決議セリ  
梅木山林ノ理由明迄八年改正ニ爾來本村ハ三千  
八戸虫尾村抜戸合シテ四十八戸シテ前同ノ額ニシテ  
此通り本谷山林乃じ梅木山林ニテ山林共同等

權利ヲ有シタル處明治拾八年西二月村本村ハ  
共有林内六反歩余ノ山林ヲ自由ニ樵伐シ虫尾村  
拔名ニハ何等關係無キ行爲ニ成リ故ニ紛議  
ヲ生ジ該村ノ當時ノ惣代上馬作五郎氏ニシテ外ニ  
役員數多有り虫尾村拾名ハ本村惣代上馬  
作五郎氏ニ再冬樹合ヲ成シタルモ上馬氏ハ只々言  
按ツノミニテ判然不致ダ然レモ虫尾村ハ幾度モ惣  
會致シ候モ遂ニ山林ノ原因アルニ付幾度出頭相  
談候共與効ノ者ト言放テテ不取敢仕矣ニ付無余  
養歸林名ノ者恨議致シ理由書ヲ作り兵庫裁  
判署ニ討訟ノ手續ヲ致シ時主務官戸長田和  
忠在傍ニ殿ノ理由ヲ申出タリ戸長田和忠在傍

門惣代上馬作五郎氏ヲ召喚シ願面ヲ讀聞シタルモ  
上馬作五郎氏ハ色々口情ヲ並ニ怠ゼサルニ付不正  
得其時明治拾八年西三月四日附シテ大番院ノ  
召喚狀ヲ受シタリ然レバ大原村ニテハ名ノ者大井  
鶴キ根親レタリ大原興左衛門氏ニ虫尾村ノ本重  
身傍氏ノニ氏ヲ頼ミ遂ニ仲裁ノ旁ヲ取ラシメ  
前記ノ梅木ノ山林又別處ノ八反元ニ其屬地原野  
差林ニ反歩ヲ差ハレ願下ケ異レトテ請依リ其  
時則テ梅木ノ山林ヲ分割シ虫尾村名持ニ移シタリ  
是時事件ニ付裁判言渡レテ契約証ヲ結ビ表  
仕ニ帶ビ虫尾村名ヲ代表シテ大谷助四郎氏右重  
郎氏ニ氏大井ノ奮闘努力カラ成シタリ

右山林明治廿二年迄ハ虫尾村拾各之各義ニテ  
梅木山林ヲ無事ニテ維持セシモ谷本村ノ谷  
山林ハ大原參拾八各ニテ維持セシ處本村ニテハ谷  
之内四五各之者行權利ヲ三輪村佐谷又次郎ト云リ  
大悪人ノ權利ヲ讓渡シタル爲メ大原村及虫尾  
迄モ損害ヲ蒙リ大原虫尾村氏日夜集會致シ佐  
谷又次郎ノ解決ニ苦シ後日山林維持方ニ就テ大  
井心齋致シ時ニ區長上馬作五郎ビシテ區長上  
馬氏三輪村村長大西善太郎致ニ相談相掛ケ  
候得ハ村長佐谷ビヨ呂喚シ讓渡セシ權利ヲ取  
戻シ兩村ノ損害ヲ整理シテ解決ナシタリ以時  
改正以來之村中持引直シテ維持セシモ大正拾貳

年頃ヨリ公共有林野統一ノ聲高シシテ本村  
統一ヲ恐レ且ツ村ノ不利益ヲ計リ林野整理委  
員亦村ハ大原万四郎氏虫尾竹谷茂吉氏見三  
氏ヲ權選シタリニ氏共ニ努力カシテ以前ノ各義持  
ニ引戻シ以時大正拾四年十二月末日ニ認可セタリ  
ニ氏共努力セラレタル爲メ虫尾大原村之公有林野  
ハ統一ヲ免カレタリ然ルニ前記山林之真屬地原野  
參又虫尾明治拾八年紛議ノ際解決スル爲メ協約  
証ヲ林虫尾村ニ差入レタルモ拘ラズ何等處置ヲ  
付スルニ付是即此際ニ處分ヲ付スルハ時期ヲ失スル  
事モ斗リ難シト虫尾村民憤議致シ時ニ虫尾區長  
中西發三郎ビシテ本村區長ノ再參樹合ヲヤシ



タリ本村ハ何等取不致ス遂ニ三年間長キ夏リ  
虫尾村民モ憤慨ニ堪ハズ愈々大正拾四年八月ニ  
至リ又々以該致シ本村ニ對交スルノ不心得サル場  
合ニ至リタリ時ニ村ニ長吉村文一氏ニシテ本村  
区長ハ再々樹合ヲ成シタリ然レモ区長中川守  
之吉不得要領ス又々虫尾村役員四五名虫頭致シ  
中川守ト色々談判致セドモ区長中川氏遂ニ言フ  
本君ニ訛シ不判然致故ニ本村ト紛議ヲ生ズ  
ルモ不心得ト決心致セバ竹右茂吉氏死ニ大石  
太十郎氏ニ氏相計リ仲裁ノ位置ニ立テ大原一島  
即方樹合シモ大原氏モ強固ニシテ應ゼズ遂ニ  
両方モ不要領得帰リ虫尾村又々集會致

シ協議セシモ遺憾ヤ不得要領ニテ解散シタリ  
時ニ大石清吉中西幾三郎竹谷文三郎氏以  
儘ニテ解決セズハ後日本村ニ對シテモ度ニ不面目  
致リ堪フト從令然シ事人タリトモ義性ニ立テ  
此事件解決ナサズト大井ニ奮闘努力セズ更ニ竹  
谷茂吉方ニ相談相掛ケ竹右茂吉氏ノ賛成ヲ  
得テ大原村区長代理上馬作次方ハ大石清吉  
中西幾三郎二人連ニシテ虫頭致シ虫尾村ノ意見  
ヲ述テ應セサル場合ハ縣廳迄モ虫頭スル自覺  
シタリ然レ時ニ當リ文竹谷茂吉氏及ビ大石太十郎  
氏ノ向大石清吉中西幾三郎ノ意見ヲ大原氏  
ニ語シ大原一島即氏モ其ニ仲裁セント心折シ

遂ニ大原氏ニ任セトノ事ニテ虫尾契約証ノ原  
野若林參及歩ノ處件裁ノ願立トシテ決極  
武及歩ト云フ事ニ成リ大正拾五年一月十四日  
ヲ以テ堺界ニ石標ヲ建テ新クニシテ本村ト虫  
尾間ニ紛議セズシテ是ニ解決ナシタリ  
後日山林維持方ニ就而林野整理委員  
色マ心肩致シ研究ヲ重ヌタル結果會社創  
置スルガ第一効成績ト云フ事ニ付梅木山林  
合名會ト稱シテ創立シタリ社員拾名ニシテ  
表者竹谷茂吉及吉村文一及ニ名ヲ推選  
シ此ニ以テ則チ吉未ヨリ由緒ニ基キ認定シタリ  
會社員ノ各義左ノ通り

竹谷茂吉 大原鶴太郎 大谷太十郎

吉村文一 中西幾三郎 大谷清吉

竹谷豊吉 西田清太郎 吉村保太郎

竹谷文三郎 此拾名ナリ

然ル處此際三名之加入者アリ會員帳議  
ニ上無代價ニテ加入セシメタリ理由吉未ヨリ代  
價ヲ以テ買受ケタル山林テ無ク往吉ヨリ由緒ト  
明治拾八年西三月本村ト紛議之際ニ分割セ  
シノ各義ニ移シタル事情モアリ權利者ハ御維  
新爾来ヨリ尚今ニ至ルモ保存シ来リシハ之則チ  
愛國心ノ深キ或ハ圓滿之趣意思ノ外テス故新  
加入者ト雖モ與代價ニテ加入セシメタリ此同

ノ權利ヲ有ス雖モ今後ニ於テ無意味ニ賣却セ  
間敷設ハ一切無キ事ヲ規約シ從令子孫ニ至  
ル上モ村ヲ愛シ由緒及ビ會社ノ定款ヲ嚴守スル爲  
ノニ又村ノ變化ヲ来ス場合有リ雖モ加入者ヨリ先  
立テ賣却或ハ分割スル等ノ如キ事絶對ニ成ラ  
非ル事ヲ議定シ山林永遠維持方ニ就テ山林ノ  
記録ト由緒ヲ作成シ永遠ニ保存スル事加入者  
小前元次 大谷 苗吉 織田 忠吉 等  
之三名合シテ檢査各署名捺印ス  
附託今後ニ於テ加入者之申込有ル雖モ決シテ前  
例ニ基ク一申無キ事ヲ決議スモ止得ザル場合  
ハ會員充分根拠上設置スルヲ決定シタリ

以上

大正拾五年寅三月作成ス

當時己長

吉村保太郎

同代理

中西箴三郎

竹谷茂吉

吉村文一

大原鶴太郎

大谷太十郎

大谷清吉

竹谷文三郎

竹谷豊吉



西田清太郎

大谷留吉

小前元次

織田忠吉

以上

格三名也